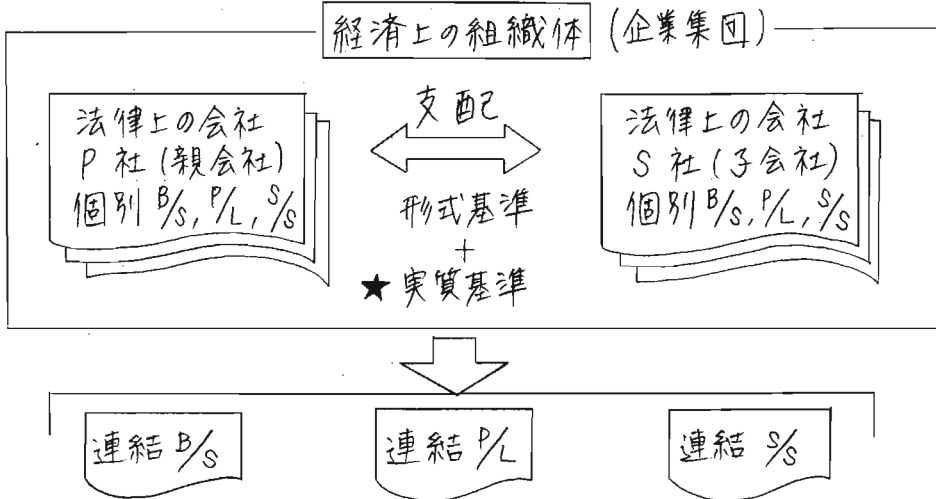


コース名	ゼ 口 VI コース
科目名	簿 記
回数	1 回

5 枚中	1 枚目
サイン	#111

Point 1

連結とは何か?



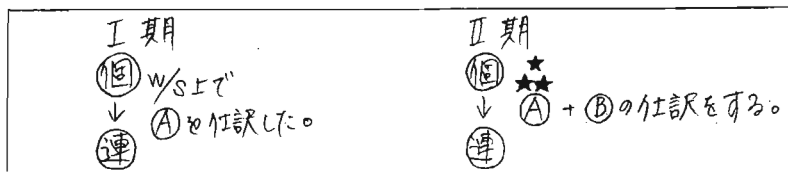
S/S: Statements of
Shareholder's of Equity

Point 2

連結財務諸表の作成方式

Step 1: P社, S社の個々の適正な個別F/Sを用意する。
→ 不適正な個別F/Sは連結に先立、て修正する。

★★★
★★★
Step 2: 連結F/S作成場所は帳簿外の連結精算表である。
→ その作業内容は①合算手続 ②消去振替手続である。



Step 3: 毎年の連結F/Sはその年の個別F/Sをベースに作成されるため、過去に行った連結精算表での消去振替仕訳は常に引き継ぐ。
→ 過去の連結仕訳を引き継ぐ際、7ローの項目 (P/L, S/S) の勘定科目は当期計上科目と区別するため (過去のものであるため) 「連結利益剰余金当期首残高」の科目に変更する。

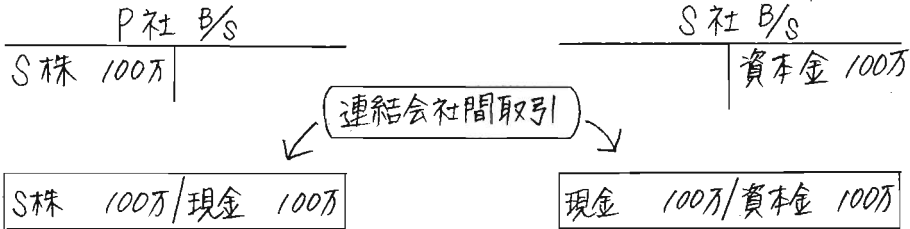
コース名	セ	ロ	VI	コース
科目名	簿		記	
回数		1		回

講義録

5	枚中	2	枚目
サイン	#101		

Point 3 消去・振替手続…投資と資本の相殺消去のケース

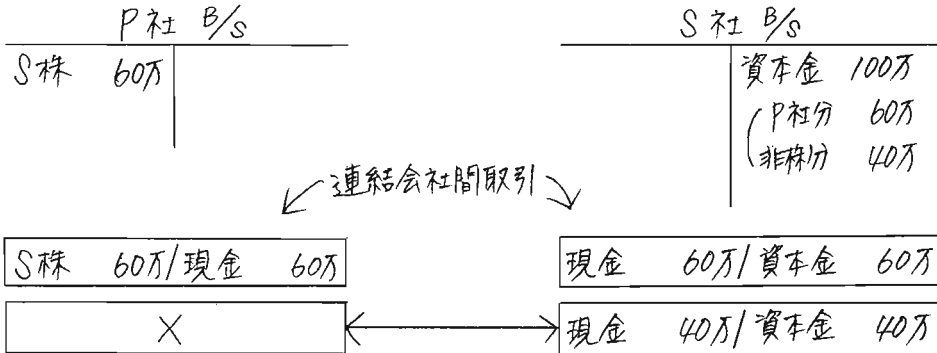
① 原始取得で設立時に100%取得のケース



連結会社間取引に伴って発生した科目及び金額は、消去しなければならぬ。そこで、連結精算表上で次の連結仕訳を行う。

連結仕訳：資本金 100万 / S株 100万

② 原始取得で設立時に60%取得LT=ケース



連結仕訳

① 消去仕訳：資本金 60万 / S株 60万

② 振替仕訳：資本金 40万 / 非配株主持分 40万



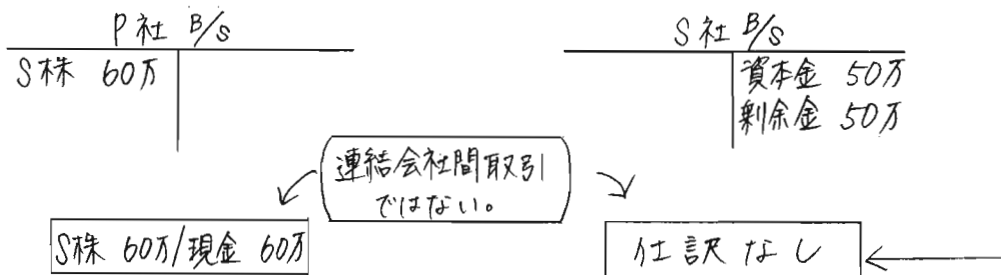
(∴) 連結上、非配株主は株主(資本)と
考えたいから

(非配株主の持分を
資本から非配株主
持分へ振替する
仕訳)

コース名	ゼ ^ロ □ VI	コース
科目名	簿記	
回数		回

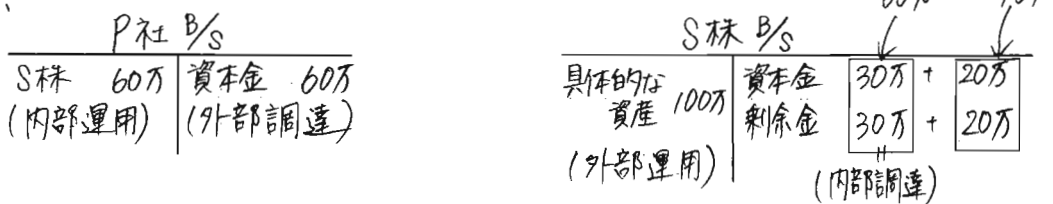
5	枚中	3	枚目
サイン		#111	

- ③ 原始取得で設立(後) 60% 取得し、投資消去差額が生じないケース (簿価 = 時価)



従って、今までの話からすると消去できない。

しかし、



このように単純に合算すると、資金調達と資金運用が共に二重計上されるため、内部運用である「S社株式」と内部調達である「資本金 30万」「剰余金 30万」を連結上消去する必要がある。また、残りの部分については非支配株主持分であるため「非支配株主持分」に振替える必要がある。

そこで、連結仕訳として、

① 消去仕訳 :

資本金 30万	S株 60万
利益剰余金 30万	

② 振替仕訳 :

資本金 20万	非支配株主持分 40万
利益剰余金 20万	

を行う。

コース名	ゼ ロ VI コース
科目名	簿 記
回数	回

5	枚中	4	枚目
サイン	井川		

④ 原始取得で設立後60%取得し、投資消去差額が生じるケース (簿価 = 時価)



しかし、

P社 B/S	
S株 60万	資本金 70万
S株 10万	外部資金調達
70万	
内部資金運用	

S社 B/S		P社分 ↓	少数分 ↓
具体的資産で運用	資本金	30万 +	20万
外部資金調達	剰余金	30万 +	20万
	内部資金調達		

合算すると60万について二重調達、二重運用とよる。

そこで、内部資金調達と内部資金運用を消去する必要がある。

従って、連結仕訳として

① 消去仕訳 :

資本金 30万	S株 70万 ←
利益剰余金 30万	
投資消去差額 10万	

内部資金運用金額をベースに消去する。

→ のれんとして20年以内に定額法等により償却する。

② 振替仕訳 :

資本金 20万	非親株持分 40万
利益剰余金 20万	

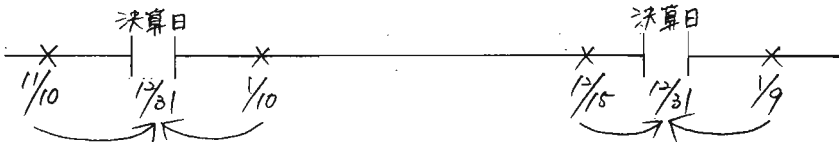
コース名	ゼ ロ Ⅶ コース
科目名	簿 記
回数	1 回

講義録

5 枚中	5 枚目
サイン	#101

Point 4

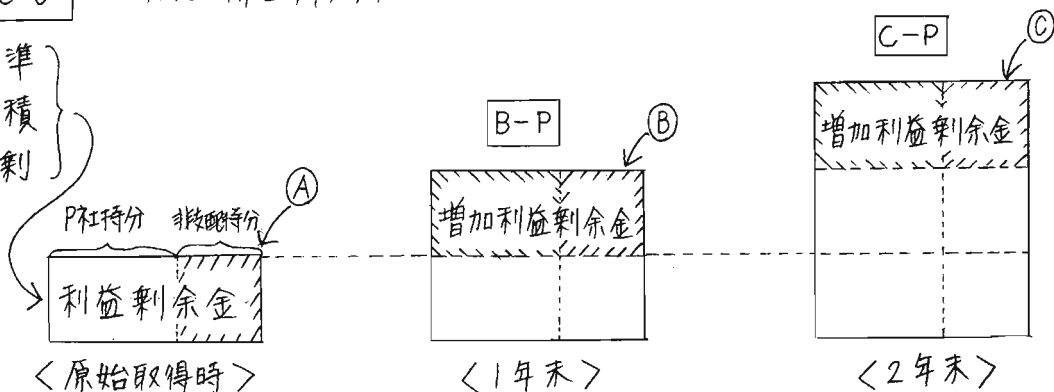
みだし取得日... 直近の決算日に取得があったものとみはす



Point 5

非支配株主帰属剰余金

- (個) 利準
- (個) 任積
- (個) 繰剰



1. 1年目の連結仕訳

① 原始取得時の連結仕訳 (振替) (純資産の部の末尾)

$$\text{利益剰余金 (A)} / \text{非支配株主持分 (A)}$$

② 1年後の増加剰余金の振替仕訳

$$\text{少数株主損益 (B)} / \text{非支配株主持分当期変動額 (B)}$$

→ P/L

$$\text{利益剰余金 (B)}$$

→ P社から見れば
「利益剰余金」の減少を意味する。

2. 2年目の連結仕訳

★★① 引継仕訳 (過去の仕訳の累計) = 開始仕訳

$$\text{利益剰余金当期首残高 (A)+(B)} / \text{非支配株主持分当期首残高 (A)+(B)}$$

② 2年中に増加した利益剰余金の振替仕訳

$$\text{非支配株主損益 (C)} / \text{非支配株主持分当期変動額 (C)}$$

※今回は補助問題はありません。